

令和5年度徳島県立図書館協議会 会議録

1 日 時 令和5年9月14日(木) 10:00～11:40

2 場 所 徳島県立図書館 集会室1

3 出席者

【委員】10名中9名出席

平井会長、中副会長、近藤委員、橋村委員、山崎委員、鈴木委員、余郷委員、
杉山委員、柏木委員

※欠席委員 長野委員

【図書館】

館長、副館長、館員10名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 委員自己紹介・職員紹介

(4) 議事

①令和4年度事業実績について

②令和5年度事業について

③その他

(5) 閉会

【議事① 令和4年度事業実績について】

【議事② 令和5年度事業について】

(委員) 館長あいさつにあった「人口あたりの蔵書冊数、個人の貸出冊数、ともに県立図書館は全国トップクラスの水準を維持している」という点について、具体的な数字を示してもらえると、他の方へ説明するときも説得力が増すのだが。

(事務局) 蔵書冊数は171万冊だが、3月末時点での人口一人あたりの蔵書冊数は鳥取・福井に続く3位。来館者数は4位、人口一人あたりの貸出冊数は0.7冊で福井・香川に続く3位、1位でも0.9冊である。少ないところは、1000人に10冊のところもある。本県では、活発に借りていただいている。

(委員) 資料2-2p.6の広報について。「当館近隣の学校へ配布」とあるがどのあたりに配布しているか。

(事務局) 八万地区が中心である。

(委員) 自分も小学生の孫がおり、学校からの配布物がたくさんある。例えば企画展「賞をとった絵本」のチラシなどはもっと広く配っていただけるとありがたい。小松島の学校では図書館のお知らせが入らない。学校からの配布物は子を通じて親も必ず目を通すので、予算の関係もあろうが、もっと広く配布すると、さまざまな行事の参加人数も増えるのではないか。

(委員) 県立図書館のご努力にいつも敬意を払っている。図書館の業務を総括すると、今現在、読書している人や読書活動をしている方々へのサービスと、赤ちゃんと楽しむおはなし会や初めての方の読み聞かせ講座など、これから読書をしてくれるだろう人を育てる活動があるだろう。読書する人を支援するのであれば、初めての方の読み聞かせ講座だけでなく、学校の先生方のための読み聞かせ講座やパスファインダーなど、「先生のための」と銘打たなければ、先生方の意識が掘り起こせない。児童サービスだけでなく、学校関係者の意識改革をしなければ、読書人を育てる県民運動の中核を担う県立図書館にはならないと思う。

『夢見る帝国図書館』(中島京子/著・文藝春秋/出版)の中にも「国民が本を読まなくなったらその国は滅びる」というようなことが書いてあり、改めて読書の意味を考えさせられる。電子書籍も良いのだが、本当に読書人を育てるならば、子どもにとって信頼できる大人からスキンシップを伴った絵本の読み聞かせなどの原体験が必要。思い出せないような原体験が、本や読書に対する信頼や愛を育てる段階であり、その後幼稚園・小学校など、発展的に読書人を育てるプロセスがあると思う。

これは図書館の仕事ではなく教育委員会の仕事だと言われればまさにその通りなのだが、現状、私も大学では学生の特に紙の本に対する読書離れの悲劇的な状況を目にしている。自分の授業では90分中15分を読書の時間に充てている。そうしないと一切本を読まないという学生が半数以上いる。アンケートでは、この15分で読書を再スタートできたという声が多い。若者が置かれている、スマホを中心とした電子メディア文化の中で読書が解体的危機にある中、私もなんとかしなければいけないと考えているが、県立図書館としても読書する人へのサービスから、読書人を育てるサービス、子育てとか学校や教師を支援・啓発する活動をお願いしたい。

(委員) 当校の国語教師から、自分の好きな本を紹介したところ生徒が読んでみて感想を話してくれたという報告があった。そういう実体験を聞くと、教員から発信しないと子どもはなかなか読まないということを実感している。読む時間がないのか読む習慣がないのかわからないが、実際に読んでいない。先生方にも、「本を読もう」と校長室に先生方向けのラックを作って本を置いているが、習慣化まではいかない。

今年の全国学力調査によると、「本が好きですか」という質問には徳島県では肯定的な回答が63.5%で、瀬戸中でも71.6%である。しかし、家での読書時間は10分以下、ほとんど読まない子を含めると読まない子がとてつもなく多い。家に帰ってしまうとスマホとゲームに支配されるという状況は県下、全国どこも同じと思われる。学校図書館の利用も来るか来ないか二極化しているが、グリーゾーンの子どもにも働きかけ、その子が読むようになれば、全く読まない子も読むようになるのではないかと考えている。生徒が本が好きであることはわかったので、何か方法があるのではないかと考えている。

(委員) 図書館協議会に参加するにあたり、高校の現状を聞いてきたが、本を手取る生徒が少なくなってきており、図書館を利用する生徒が少なくなってきているとのことだった。親も忙しくスマホを見ているという状況が、子へも返ってきているのかなと思う。祖父母からは、とりあえず新聞を家庭に置くことから始めてはどうかと言われている。自分は子どもが3人いるが、本を読む子読まない子、それぞれであるが、幼い頃から読み聞かせをしていた子が、よく読書をしているように感じている。友達の読書に影響を受けて読み始めた子もいる。

県からは学校へ働きかけをしてもらえたらと思う。学校からは、読書をする子ども達が少ない現状へどう対応すればよいかという質問を預かって来た。

(委員) 中四国の研修会があったということだが、読書のきっかけ作りでうまくいっている事例などはあるのか。成功例などあればご教示願いたい。

(委員) 8月に生涯学習課が高校生のための読み聞かせ講座を開催し、50名以上の参加者がいた。参加理由を尋ねたところ、自分が子どもの頃絵本を読み聞かせしてもらって楽しい経験があるから、今度は自分が読み聞かせたいという回答があった。そのような繋がりの中にあるのだということが分かった。なんとなく親から子への繋がりがあるのだろうと考えてはいたが、実際参加者のほとんどが絵本を読んでもらったことがあると答えたことにとても驚いた。次は、お母さんにおもしろい絵本を紹介してあげるというのも一つの方法かと思う。今、子育てで孤立しているお母さんもいるので、お母さん同士が絵本を紹介する機会や、赤ちゃんと楽しむおはなし会も、赤ちゃんへの読み聞かせだけでなく、お母さん同士の交流や、お母さんに向けた「こんな絵本を喜ぶますよ」という情報提供も目的として、すこし方向転換してはどうか。子育て中の親に優しい図書館を目指してほしい。

(委員) 県立図書館の職員には頭が下がる思いだ。お礼を申し上げたい。10代の若者の読書離れが話題になっているが、私から一点提案させていただきたいのは、「探究」ということである。全国的な傾向と徳島県の違いを挙げると、小中学校で探究学習をやっているか否かということに尽きる。徳島県で探究学習をやっていない訳ではないが、図書館を使っているか否かということについては、全国的では高い確率で使っている状況がある。例えば、東京都立図書館は館外貸出していない図書館だが、都立多摩図書館の土日は小中学生で埋まっている。もちろん自習している子もいるが、調べ物をしている子もいる。図書館にも10代向けの調べものの本が豊富に揃っている。小さい時から調べるなら図書館へ行こうという流れが教育や自由研究の中でできている。私はここに、解決の策がないかと思っている。

また、先ほどの報告について、「赤ちゃんと楽しむおはなし会」と「助産師さんと話そう」は、ターゲットを絞ってサービスしているという点が非常に素晴らしいと思う。どういう方にどういうニーズがあるかということ調べた上でイベントを開催している。また、例えば育児書を読みたい保護者向けにQRコードを用意しているという話があったが、インターネットだけでは物足りないというときに図書館からこんな本があるよという情報提供があれば、図書館へ行ってみようと思うだろう。ニーズを調査しどんなイベントをしていくのか、そういったことを皆さんと共有しながら進めていけたらと考えている。

(委員) 学生目線でお話を聞いていた。余郷先生のように授業時間に読書の時間を設けるなど、本が読める環境を整えてもらえるとうりありがたい。今の時代、すごく感じているのが、人とつながっていないと不安ということである。読書は、複数人でも可能だが、基本的には一人で本の世界に浸るというイメージがある。なので、休み時間に読書しようとしても友達との時間を優先することで、読みにくい環境がある。一人でスマホを見ている人もいるが、多くはSNSで離れた場所の誰かとつながっているので、一人で読書を楽しむという環境に置かれている人が少なくなっているのかなと思う。安心して一人で読書ができる環境があれば、もう少し読書率が上がるのかなと考えた。

中高生、大学生にもっと図書館を使って欲しいということと、図書館の使い方をこの年になると改めて尋ねにくいということもあるので、図書館を舞台にした謎解きイベントを開催している方と協力して、実際に大学図書館を舞台にした謎解きイベントを文化祭の企画として計画している。謎解きが、図書館の使い方や、こんな本があるという発見のきっかけになればと考えている。図書館での調べ方を踏まえた謎解きをして、最終的には一冊の本にたどり着くというものである。

(委員) 学生はバーチャルな世界を好んでいるのかと思っていたが、意外にもバーチャルな世界をリアルで体験したいというニーズがあるようだ。体験や人との接触を欲しているという面があるのかもしれない。

(委員) 橋村委員、公共図書館としてのきっかけ作りをどのようにされているのか。

(委員) 図書館に来てくださるのは本に興味がある方がほとんどだが、本に興味の無い方にどうやって図書館に来てもらうかという事を模索中である。また、絵本専門士として全国の関係者と話す機会があるが、共通していることは「読書離れ」である。家庭で本を手にとらないということも多くなっている。ほかに共通していることは、いろんな学校で読み聞かせを行う中で、先生も一緒になって聞いているところは、その後生徒が本を手にとる確率もかなり高いし、本に興味を持つ雰囲気ができあがっているということだと思う。先生も忙しいだろうが、読み聞かせの間、テストの採点をするよりは、一緒に聞いて「おもしろい」などと言っていると生徒も興味を持つ。先生の影響は大きいと思う。

電子書籍について、県立から配布される利用案内の小冊子を利用者に渡して、同時に説明もするのだが、もう少し簡単な利用案内が欲しいと言われる。若い人でも分からないという人がいる。子ども向けの大人バージョンのようなものがあれば良い。電子書籍をやってみたいという声は聞くが、やってみたが挫折したという人も多い。その度に説明はするが、尋ねる前に諦めてしまう人もいるのでもったいない。

(事務局) やさしい表現にするとか、図の示し方もわかりやすいものにするとか、工夫をしてみたい。

(委員) 県立図書館に感謝したいことがある。阿波の歴史小説で読書感想文を募集して8年目になるが、県立図書館で阿波の歴史小説の本を置いてくださり、募集のチラシもとても目に付くところに立てて置いてくださっておりありがたい。これは、本を好きな人が対象の話ではあるが、毎年100人程度の応募がある。年齢は13歳から92歳まで幅広く、10代が13人、80代が3人、90代が4人だったことに驚いた。何度も読み、感想文を書くというものすごい作業だが、中学生・高校生・大学生、さらに80代90代の方の応募があり感動した。募集への応援、また、他にも調べ物への応援をしてくださることに心から感謝している。

(事務局) 杉山委員から探究学習の話もあったが、県立図書館へ行けばこんな本がある、こんな知的情報があるということを周知できれば利用率も上がるのではないかと。読み聞かせなどのイベントは限界に近い部分でやってもらっていると思うが、こんな本がありますよという情報発信ができると良い。それから、最近考えていることとして、本を検索するときに漢字を間違えて入力するとまず読み込んでくれない(正しい表記の資料名が候補として出てくることはない)。例えば漢字とひらがなどちらでも読み込めるというような、将来的には良い意味でAIが導入されて実現するのもかもしれないが、ひらがなで打てば、それに関する資料が出てくるなど、利用しやすい環境を作ってもらえればと思う。

(委員) 図書館の業務と少し外れるが、『年報』42ページの「徳島県立図書館案内図」について。県立図書館までは本当に不便である。バスは少ないし駅からも遠いし、「文化の森駅」もあるが駅から歩いて35分などとんでもないことだ。重たい本を持って特に高齢者には厳しいと思う。やはり来館して欲しいとなると、交通の便を改善するよう県かバス会社かに申し入れて欲しい。バリアフリーで障がい者にも実際に来館して欲しいのであれば、文化の森駅から、公園の中まで乗り入れる本数を増やしてくれるよう要望して欲しい。もちろん、三好や祖谷などの本当に不便なところに住んでいる方々は協力車での貸出があり助かっている。だが、実際に本が並んでいるところを見たい、図書館の雰囲気が好きだという方のためにも、高齢社会になり免許返納することもあるので、ぜひとももう少し便利にして欲しい。

(委員) 南循環コースの中に組み入れてもらえると良いと思う。

(事務局) この度大規模修繕として、雨漏りの防止と、2階閲覧室の天井と床の張り替え工事を予定している。今年度、設計を委託している段階。来年度の工事に向けて予算要求を予定している。工事の期間や方法は10月に設計業者から報告を受け、その後館の運営方法を検討することになる。皆さんにこのような会で報告するよりも前に、ホームページでオープンになることもあると思う。

(委員) 例えば工事期間が1年くらいになるとか、閲覧できなくなるかどうかとかは、わかるのか。

(事務局) その辺りも含めて、業者が様々なやり方を提案してくれている。それを受けて、館としてどれがベストかということを判断していきたい。

【議事③ その他】

特になし。

(委員) それでは、これをもって本日の議事については終わらせていただきたい。